

平成 23 (2011) 年度トヨタ財団事業計画

I. 平成 22 (2010) 年度事業報告

急激に変化する国内外の状況や、社会構造の変化、また継続的な低金利時代を視野に入れ、公益財団法人への移行にともない、トヨタ財団の今後の方向性を明確にした活動が必要不可欠

1. 重点実施項目

- (1) 公益財団法人への移行にともない、設立の趣旨を踏まえ、変化の激しい現代に対応する「ビジョンの確立」
- (2) 各プログラムのこれまで社会へ与えた成果や効果を検討し、今後の日本国内および海外への助成方法についての積極的な検討・見直し
- (3) 効率的な財団運営を実施、より強固な安定した財政基盤の確立

2. 事業内容

プログラム・項目	実施内容									
(1) ビジョンの確立	①2010年4月公益財団法人認定後「トヨタ財団ビジョン 2010、よりよい未来を構築するために」策定。 ②上記ビジョンを踏まえ公募プログラムの改定を実施（詳細別添資料1）									
(2) 地域社会プログラム ＜公募状況＞ <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>公募件数</th> <th>採択件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2009</td> <td>619</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>709</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>	年度	公募件数	採択件数	2009	619	36	2010	709	37	①公募説明会の回数を増加し、(2009年度：9回→2010年度：15回) きめ細かな体制での助成プロジェクトのレベルアップにトライ ②シンポジウム(2回)、ワークショップ(4回)を通じ、課題の共有化と個別プロジェクトのレベルアップを実施 ③特定課題「離島助成」の結果とりまとめ及び、シンポジウムの実施 ▶改定のポイント i) 2008～2010年度の公募状況等から日本の地域・市民活動と合致 ii) つながりの構築とライフスタイルの変革という視点での地域のデザインをポイントとして強調 iii) 課題解決の仕組みに繋がりにくい領域・分野が存在
年度	公募件数	採択件数								
2009	619	36								
2010	709	37								
(3) アジア隣人プログラム ＜公募状況＞ <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>公募件数</th> <th>採択件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2009</td> <td>313</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>354</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	年度	公募件数	採択件数	2009	313	23	2010	354	19	①アジア地域における課題の見直しを実施 ②モニタリングを強化し、各プロジェクトのフォローを着実に実施 (2009年：20件→2010年度：25件) ▶改定のポイント i) アジアにおける「安心、安全な社会の実現」にむけて貢献できるテーマ設定 ii) アジア各地域の課題を公募状況等から分析し、それに沿う形で助成の枠組みを整理 iii) 複数の国や地域にまたがる課題を、解決するプロジェクトを積極的に支援
年度	公募件数	採択件数								
2009	313	23								
2010	354	19								
(4) 研究助成プログラム ＜公募状況＞ <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>公募件数</th> <th>採択件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2009</td> <td>734</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>939</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	年度	公募件数	採択件数	2009	734	44	2010	939	45	①テーマを見直し、領域の拡大を試行 ②モニタリングを強化し、各プロジェクトのフォローを着実に実施 (2009年：40件→2010年度：50件) ▶改定のポイント i) 領域横断的なプロジェクトが多数を占めることから研究のプロセスを重視 ii) 個人研究または若手の研究者の育成を狙いとした分野を強化
年度	公募件数	採択件数								
2009	734	44								
2010	939	45								
(5) 社会コミュニケーションプログラム	①過去に助成したプロジェクトの成果公表のための、出版助成を実施(1件)									
(6) イニシアティブプログラム	①中東対話プロジェクトを実施 ②SEASREPについて、アジアエンポリウムに助成、併せて今後のアジア域内での若手研究者育成の方向について協議									
(7) その他	①「低炭素化社会推進研究会」を実施。トヨタ財団と活動主体組織との連携を検討 ②広報誌を継続して発行(3回/年) ③WEBの改定に着手 ④効率的な資金運用を実施し、基金の取りくずしなく財団事業を運営									

II. 平成 23 (2011) 年度への課題

- 1. トヨタ財団ビジョン 2010 : 「よりよい未来を構築するために」の着実な実行
- 2. 各プログラムの改善、充実、及び既助成プロジェクトのレベルアップと社会が抱える課題の発信
- 3. 公益財団法人として、相応しい活動体制の確立

III. 平成 23 (2011) 年度事業方針

トヨタ財団、第二の創業期との思いを念頭に、活動実績を踏まえ、設立趣旨を生かしながら、現代社会に対して正面から向き合い、助成財団として果すべく役割を再構築する。

1. 重点実施項目

- (1) 変化の激しい現代社会を見据え、現在、及び過去の助成対象者等との連携を強化し、よりよい未来を構築するための活動を推進する。
- (2) 各プログラムの効果を分析、活用し、助成内容をより一層充実する。
- (3) 公益財団法人として相応しい日常業務の遂行に努める。

2. 事業内容

項目	実施内容
(1) 地域社会プログラム ＜助成金総額：1億2,000万円＞	①日本社会の抱える、より切迫した課題(Ex: 少子高齢化、若者、移民等)に対する支援強化の検討 ②各助成プロジェクトの成果をより具体的な形にすることを目的とした、ネットワークの形成(中間支援組織、過去の助成対象者等) ③シンポジウム等、助成対象者や中間支援組織が集う場を積極的に開催し、日本社会の課題解決の担い手の育成にトライ
(2) アジア隣人プログラム ＜助成金総額：1億2,000万円＞	①トヨタグループとの連携を強化し、アジア各国の課題の掘り下げ ②東アジア(特に韓国)との共同助成について新たな視点で検討 ③特定課題「アジアにおける伝統文書の保存、活用、継承」は一年間休止し、今までの成果を分析し、今後の助成のあり方について検討
(3) 研究助成プログラム ＜助成金総額：1億5,000万円＞	①現代社会の抱える課題が集積する特性を生かし、他の2つの公募プログラム改定に資する分析を実施 ②研究から具体的な課題解決にいたるプロジェクトの発掘と継続支援の検討 ③若手研究者への支援の強化
(4) 社会コミュニケーションプログラム ＜助成金総額：2,000万円＞	①既助成プロジェクトの中から、さらに発展する可能性の高いものを積極的に発掘・支援 ②成果公表のための出版助成については継続実施 ③選考方法は前年度同様、財団内で協議を行い、関係選考委員による選考委員会で協議の上、理事会にて決定
(5) イニシアティブプログラム ＜助成金総額：2,300万円＞	①3つの公募プログラムでは支援の難しい社会的に重要な課題についての助成を検討 ②「SEASREP」については、アジア地域内の若手研究者育成を狙いとしたプログラムを支援し、定着化をはかり、評価 ③2011年3月11日に発生した震災への緊急支援として、被災者支援に取り組むNPO等の活動を支える助成について検討 ④選考方法は前年度同様、財団内で協議を行い、関係選考委員による選考委員会で協議の上、理事会にて決定
(6) 広報・自主活動	①各プログラム間の連携を強化し、財団と社会を繋ぐ架橋としてのシンポジウム等の開催を企画立案 ②「低炭素化社会推進研究会」を踏まえ、一般市民も巻き込んだ取り組み等を検討 ③財団WEBを助成対象者、応募希望者がより使いやすく、情報共有可能なものへ全面改定。広報誌は前年度に準じて継続発行

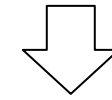
【地域社会プログラム】

【2008年度～2010年度の地域社会プログラム】

公募テーマ「地域に根ざした仕組みづくり——自立と共生の新たな地域社会をめざして」の下、地域に生きる人びとが主体となり、その地域の課題を解決する「仕組み」の形成に繋がる、持続的な作用・効果の強い、具体的な結果の産出をめざすプロジェクトを支援

【2011年度の地域社会プログラム】

公募テーマ「人がつながり、地域が動く——新しい地域社会をひらく仕組みづくり」の下、引き続き、地域に生きる人びとが主体となる、課題解決の「仕組みづくり」を重視しつつ、「トヨタ財団ビジョン2010」も踏まえ、「仕組み」の本質を成す「人びとの参加とつながり」を促進するプロジェクトを支援



2008～2010年度プログラム		2010年度の課題及び新プログラムの考え方		2011年度プログラム	
1 プログラムの狙い	<p>地域社会の再生・振興に向け、地域が直面する課題の解決に取り組む、実践的な活動を支援。</p> <p><ポイント> 持続的な作用・効果の強い、具体的なプロジェクトの結果の蓄積。</p>	1	<p>成果</p> <p>①多数の助成プロジェクトが地域の課題を解決する「仕組み」の形成に繋がる、持続的・具体的な結果をめざして活動し、地域により変化を生じつつあると見られる。</p> <p>②改定より2年経過し、課題解決の「仕組みづくり」を促す趣旨に対しては、さまざまな地域、領域・分野において、一定の理解・共感が得られた手応えが感じられる。</p>	1	<p>テーマ：「人がつながり、地域が動く——新しい地域社会をひらく仕組みづくり」</p> <p>地域社会の再生・振興に向け、地域が直面する課題の解決に取り組む実践的な活動を支援。</p> <p><ポイント> ①地域社会の共同体性の強化（つながりの構築）と、主体的な社会参加の促進（ライフスタイルの変革）＝地域のデザイン ②持続的な作用・効果の強い、具体的なプロジェクト結果の蓄積</p>
2 助成の枠組み	<p><助成対象></p> <p>(A) 「自立をめざす仕組みづくり」 (B) 「共生をめざす仕組みづくり」 (C) 「人が育つ仕組みづくり」</p> <p><助成の要件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト形式 ・領域・世代横断性 ・情報発信の意欲・ノウハウ 	2	<p>(1) 2008～2010年度の公募状況から、①応募案件の課題領域・分野の状況、②応募数増加により、プログラムにおける課題の設定が、全国の地域活動・市民活動のニーズに対して合致度が高いと判断できる。</p> <p>(2) 課題解決の「仕組み」に繋がる、持続的・具体的な結果を生むことが特に難しいと考えられる課題領域・分野が存在し、それらについての検討が必要。</p> <p>例) 高齢者・障がい者・外国籍市民の福祉・社会参加、子供の育ち・学びの支援、地域活動・市民活動を担う人材の育成など。</p>	2	<p>【1】「自立をめざす仕組みづくり」 【2】「共生をめざす仕組みづくり」 ※「高齢者・障がい者・外国籍市民の福祉・社会参加」など、課題解決の「仕組み」に繋がる、持続的・具体的な結果を生むことが特に難しいと考えられる課題領域・分野で、より積極的な助成を行うことが可能となるよう、プログラムの工夫を図りたい。</p> <p>【3】「人が育つ仕組みづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト形式 ・領域・世代横断性 ・情報発信の意欲・ノウハウ ・地域課題・資源の現状の把握
3 助成額	<p>①公募期間：2010年9月8日～11月8日</p> <p>②選考方法：外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定</p> <p>③助成金総額：1億2,000万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1件当たりの助成金額：年間300万円程度まで ・人件費＋事務局経費は助成金額の50%未満 <p>④助成期間：2011年4月1日より1年間もしくは2年間</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・助成プロジェクト個別の実践状況から、実際に地域により変化を生じつつあると見られる。 ・事業助成であることを明確にするため、人件費および事務局経費については一定の制約が必要。 ・単年度主義に立脚する、行政の補助金との明確な差別化を図りたい。 	3	<p>①公募期間：2011年9月7日～11月7日(予定)</p> <p>②選考方法：外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定</p> <p>③助成金総額：1億2,000万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1件当たりの助成金額：年間300万円程度まで ・人件費＋事務局経費：助成金額の原則50%未満 <p>④助成期間：2012年4月1日より1年間もしくは2年間</p>

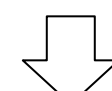
【アジア隣人プログラム】

【2010年度のアジア隣人プログラム】

2010年度のアジア隣人プログラムは「信頼と協働に基づくコミュニティ形成を目指して」というテーマのもと、3つの助成領域に係る課題解決型のプロジェクトを助成対象とした。

【2011年度のアジア隣人プログラム】

本プログラムでは、アジアの課題に対応でき、未来志向型のプログラムとなるよう「よりよいアジアの未来を目指して」という地域・時代に左右されない普遍的なテーマのもと、課題解決型のプロジェクトに助成する。助成領域として次の三つの視点を有しているプロジェクトを募る（改訂の詳細は下表参照）。



2008～2010年度プログラム		2010年度の課題及び新プログラムの考え方		2011年度プログラム	
1 プログラムの狙い	<p>テーマ：「信頼と協働に基づくコミュニティ形成を目指して」</p> <p>趣旨： アジアのコミュニティが抱えている課題を解決するプロジェクトを支援する。</p>	1	<p>国や地域をまたいで課題解決に取り組むことを期待したが、結果としてこじんまりしたプロジェクトが散見された。</p> <p>2011年度への検討</p> <p>1) 「ビジョン2010」に基づく。 2) 本プログラムがアジアにおける「安全・安心な社会の実現に向けて」どのように貢献することができるのかを中心に考え、以下を重視する。 ①アジアを一つの地域圏として捉え、課題に対する視野を広く持ち、隣人と共に取り組む。 ②よりよいアジアを築くため、相互理解と協力関係に基づき、主体的にプロジェクトを遂行する。</p>	1	<p>テーマ：「よりよいアジアの未来を目指して」</p> <p>趣旨：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様性に富んだアジアが多文化共生を目指す中、諸地域では摩擦が生じており、それに伴う社会的課題は多い。 <li style="text-align: center;">↓ ●アジアに暮らす人々が隣人と協力しながら課題解決に取り組むことで、安心・安全なアジア社会を実現できるのではないか。 <li style="text-align: center;">↓ ●世代間・地域間において有機的な連携を築きつつ、アジアの抱えている課題の解決に取り組むプロジェクトを支援する。
2 助成の枠組み	<p>①人と自然： 人と自然との関わりを見つめ直し、持続可能なコミュニティ形成をめざすプロジェクト</p> <p>②人と人 ・文化： 文化の保存・活用・継承を通じてコミュニティ形成と発展に寄与するプロジェクト</p> <p>・社会システム： 既存の制度や慣習の見直しなど、くらしの充実を目指すプロジェクト</p>	2	<p>アジアに共通する課題を整理すると以下の課題が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 持続可能なコミュニティ形成 ② 経済的な自立を目指した取り組み ③ 文化の継承に関する取り組み ④ 人材育成 <p>これらの課題は、実施内容によって以下のような取り組みのあり方が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地球規模やアジアという広い視野に基づいた取り組み ② 一つの国や地域に限定した取り組み 	2	<p>【1】相互理解の促進と人材育成</p> <p>【2】各地域の抱える諸課題に対応する社会制度の構築及び再整備</p> <p>【3】環境に配慮した持続可能なコミュニティ形成</p>
3 助成額	<p>①公募期間： 2010年3月16日～5月12日</p> <p>②選考方法： 外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定</p> <p>③助成金総額： 1億2,000万円</p> <p>④助成金の枠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模助成：上限額は200万円/2年間（一国内や一地域のメンバーによる活動の場合、この枠を薦める） ・一般助成：200～800万円/2年間 <p>⑤助成期間： 2010年11月1日から2年間</p>	3	<p>小規模助成と一般助成の2枠を設定したが、上限に張りついた申請が多く見られた。</p>	3	<p>①公募期間： 2011年4月1日～5月13日</p> <p>②選考方法： 外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定</p> <p>③助成金総額： 1億2,000万円</p> <p>④助成金の枠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単一国内でのプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> i) 上限200万円 ・2国以上でのプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ii) 300万円～800万円 ：アジアの諸国に共通する課題に取り組むこと iii) 1,000万円～1,500万円（特別枠） ：アジアの諸国の課題解決を通じて世界的規模の課題解決につながるもの <p>⑤助成期間： 2011年11月1日から2年間</p>

【研究助成プログラム】

「研究助成プログラム」の狙い

- (1) 長期的な視野にもとづいた新たな価値観の提示
- (2) 明確な方法論にもとづいた社会変革への道筋の提示
- (3) 次世代を担う若手研究者・在野研究者の育成

2008～2010 年度プログラム		2010 年度の課題及び新プログラムの考え方		2011 年度プログラム							
1 プログラムの狙い	<p>テーマ：「くらしといのちの豊かさをもとめて」</p> <p>基本テーマのもと、 研究領域の細分化が進む現状へのアンチテーゼとして 「領域横断性」のある研究を助成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる背景や専門性をもつ研究者が共通の問題意識で行う社会的意義の高い研究 ⇒ 共同研究 ・若手や在野の研究者が一人でやる研究。自由でイノベティブな視点や将来性を重視 ⇒ 個人研究 		1	<p>「ビジョン 2010」の趣旨を踏まえ研究助成の意義の明確化</p> <p>「ビジョン 2010」：よりよい未来を構築するために</p> <p>重点テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 支えあいと協働 ② 新たな社会の形成 ③ たくましい明日（グローバル化に伴う諸問題） ④ 文化の継承と創造 		1	<p>テーマ：「よりよい未来を築く知の探究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間財団の研究助成として、既存の概念に囚われない、柔軟な発想にもとづいた創造的で社会的意義の大きい研究を引き続き支援する。 ● 「ビジョン 2010」の趣旨を踏まえ、テーマを改変する。特に、想像力と活力に満ちた社会の実現をめざし、多様な領域から異なる段階・性質の研究をそれぞれ助成する枠組みを設定する。 ・顕在化している社会の課題に向き合い、その解決に果敢に取り組む実践的な研究 ⇒ 共同研究 1（ビジョン②③） ・自由な発想にもとづき、新たな価値や規範の創出をめざした斬新な研究 ⇒ 共同研究 2（ビジョン①④） ・おもに次代を担う若手および在野の研究者が個人で実施する研究 ⇒ 個人奨励（ビジョン①） 				
	2 助成の枠組み	<p>※「文化」「社会」「自然」の3つの研究領域から、それぞれ共同研究、個人研究を募集した。</p>		2	<p>過去の応募案件・採択案件の分析／研究助成の問題意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究領域ごとに分けて募集をしたが、「文化」「自然」に関わる案件であっても「社会」との接点や領域横断性が不可欠。 →より包括的な研究領域の設定が必要。 ・公的な研究資金の配分にアンバランスが見られる → 当プログラムでは公平な資金配分や自由な研究環境の整備を重視。 ・研究者の育成 → 科研等、従来の枠組みでは支援しづらい「若手研究者」「在野研究者」を積極的に助成することも検討。 		2	<p>A 共同研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 社会的課題の解決に資する実践的な研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的課題を設定し、その解決を目指す内容 ・ 方法論が明確であり、社会還元、成果への道筋が具体的に示されている ・ 遂行可能性、現実社会への寄与を重視 2. 新たな社会の実現に向けた価値創出型の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな価値観、視点を提示しうる内容 ・ 短期的成果よりも独自性・創造性の高さを重視 ・ 自由な発想と試行錯誤のプロセスを重視 			
		<p>文化の伝承と形成 社会の仕組み 自然とのつながり</p> <p>くらしに根ざした身近な文化を見つめ直し、現代社会に新たな価値観を提示しうる研究</p> <p>インフォーマルな制度を含め、担い手とともに変わりゆく社会構造の構築に寄与する研究</p> <p>豊かなで限りある自然と向き合い、持続的・安定的な地球社会の創造に資する研究</p> <p>共同 個人 共同 個人 共同 個人</p>			<p>B 個人奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の枠組みでは対象となりにくい、おもに若手や在野の研究者が個人で実施する研究 ・ 人材育成の観点から、研究者の将来に資する研究を重視 <p>※選考基準、企画書の様式などがカテゴリーAとは区別して募集を行う</p>						
3 助成額	<p>①公募期間： 2010年3月16日～5月12日</p> <p>②選考方法： 外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定</p> <p>③助成金総額： 1億5,000万円（共同研究・個人研究合計） プロジェクト1件当たりの助成金額 共同研究：上限額 800万円/件 個人研究：上限額 200万円/件</p> <p>④助成期間： 2010年11月1日から1年間もしくは2年間</p>		3	<p>・「共同研究」の1件当たり上限額を引き上げ、可能性のある案件に対して大きな額を助成することを検討。</p>		3	<p>①公募期間： 2011年4月1日～5月13日</p> <p>②選考方法： 外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定</p> <p>③助成金総額： 1億5,000万円（共同研究・個人奨励合計） ・プロジェクトのカテゴリー別総額 カテゴリーA 共同研究：上限額 1,000万円/件（1,2 総額各 6,000万円程度） カテゴリーB 個人奨励：上限額 200万円/件（総額 3,000万円程度）</p> <p>④助成期間： 2011年11月1日から1年間もしくは2年間</p>				